

## レオポルド ワイス (政治家 ジャーナリスト、オーストリア) (パート 2 / 2)

:

明:  
ドイツとヨーロッパにおいて最も威風凛々な新移民の一つであるフランクフルト ツァイトウングのある特派員がムスリムとなり、イスラームの文化の意味を翻す。パート2.

目: [事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: イブラヒムA.バワニ

日 06 Dec 2009

集日 12 Dec 2009

1922年に、私は自国オーストリアを去り、アフリカからアジアにかけていくつかのヨーロッパ系大手新聞の特派員として旅行し、その年からイスラームで殆どの時間を過ごしました。私とその地域との付き合い始めた頃は、当初よそ者としてのものでした。私は目の前に、欧州とは根本的に異なる社会秩序と人生の捉え方を発見したのです。そして初めて私の中に、よりいっそう平和への好感が芽生えたのです。いや、こう言いたいでしょうか。ヨーロッパの生活はとても機械的なものです。この好感は次第に、そのような生活の原因の研究へと私を引き、そして私はムスリムの宗教的教えに興味を抱くようになりました。

その点では、この興味は私をイスラームの文化に引き込むほど十分ではありませんでしたが、私に人々の社会の新たな展望や真摯な感情を教えました。しかしながら、今日、今日のムスリムの生活は、イスラームの宗教的な教えに沿った理想的な可能性からはかけ離れています。イスラームにいかほどの発展があっても、ムスリムの文化には怠惰や猜疑心となってしまっています。またイスラームにおいていかに大きな犠牲のための用意があっても、今日のムスリムの文化では、心の狭い、物質的な生活の追求へと墮落してしまったのです。

この文化に立ってられ、そしてかつてと今の明らかな差に困惑し、私は目の前の文化により密着する方法で近づこうとしました。つまり、私は自分がイスラームの文化の中にいると想像しよ

うとしました。それは 知的な でした。そしてそれは非常に短い でもって、私に正しい解 策を知らせました。私は、ムスリムの社会的 文化的な崩 の唯一の理由は、彼らが心の中で徐々にイスラ ムの教えに うことをやめてしまった事 にあることに 付きました。

イスラ ムはまだそこにありました;が、それは魂のない体でした。かつてはムスリム世界の さを象 した一番の要素が、今はその弱点の原因なのです。イスラ ム社会は最初から、宗教的な基 のみで されていました。そしてその基 の弱体化は必然的に、彼らの文化的 造を弱体化させました。そしてそれは、その最 的な消 を引き起こす可能性があるのです。

イスラ ムの教えがいかに具体的で、非常に 用的であるかということを理解すればするほど、なぜムスリムが真の人生への 心をやめてしまったのかという疑 は くなるのでした。私はリビア砂漠からパミ ル高原、ボスポラス海峡からアラビア海までのほぼ全ての国で、多くの思 深いムスリムたちとこの について し合いました。それは、私のイスラ ム世界への他の全ての知的 味を、最 的に 劣りさせる位の状 にまで しました。その疑 は着 に まっていき、 -

非ムスリムである私はまるで自分がムスリムであるかのように、彼らの怠慢や怠惰からイスラ ムを守るためムスリムたちと をするほどでした。ある日まで私は、自分自身の に 付いていませんでした。

それは1925年の秋、アフガニスタンの山 で若い州知事が、私にこう言った のことです：「あなたはムスリムですが、自分ではそれが分からないのです。」私はこの言 に を受け、沈 しました。しかし1926年に再びヨ ロッパに った 、私は自分の感情への唯一の理的解 は、イスラ ムに 依することだと知りました。

ムスリムになって色々なことが起こりました。それ以来私は、何度となく されました：「どうしてイスラ ムを受け入れたのですか? 特に何にあなたを魅了したのですか? 」 のところ私は、 足のいく答えが分かりませんでした。何か特定の教えが私を惹きつけたわけではありませんでしたが、全体的に言って、その素晴らしく不思議にも 理的な道 教 の 造や、 用的な生活 が私をひきつけたのでした。

私は今でも、そのどの部分が他の部分よりも私をひきつけたのかわかりません。私には、イスラムが、完璧な建 作品のように思われるのです。全 全ては、他の部分を い支え合うために 和していました。イスラムは 不足なく、かつ 的なバランスと かな平静さのもとに成り立っていたのです。おそらく、イスラムの教えとその 定の全てが、"その 切な 所にある"というこの感 が、私に最も い印象を与えたのです。それと共にあったかもしれない他の印象を今日分析することは、私にとっては困 です。局のところ、それは 情の だったのです。情は多くのこと；私たちの欲求や孤独、 さや弱さ、高い目 や欠点から 成されているものです。それが私の 合でした。。イスラムは、夜に家に侵入する 盗のようにやってきました。ただ、それは 盗とは って 良い物を残すために侵入してきたのです。

それから、私はイスラムについて出来るだけ多くを学ぼうと努力しました。私はクルアーンと 言者（神のご慈悲とご加 が彼にありますように）の を学びました。また私はイスラムの言 とその 史、そしてそれについて かれた大半のことと、それに反することを学びました。私は5年以上ヒジャズとナジュド地方、及びマディナでほとんどを ごしたので、アラブ人の 言者により かれたこの宗教の、原 境に存在していた何かを したかもしれません。ヒジャズは多くの国のムスリムが集まる中心部なので、私は大抵の なる 宗教的及び社会的 点を今日のイスラム世界で比 することができました。これらの研究と比 は、ムスリムの欠 が原因で全ての欠点が 生したにも わらず、いまだイスラムが精神のおよび社会的 象として、人 が した中ではるかに最大の原 力であるという 固たる信念を私に作り上げました。それ以来私の全ての 味は、その再生の が中心になったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/159>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。